

大椎っ子田んぼ 2009

松下 恵美子(YPPスタッフ・5年生保護者)

小山町で、大椎小学校の5年生が田植えをやらせていただくようになって、3年目となりました。子どもたちには、田植え、稲刈りを思う存分楽しんでもらいたい、少しでもたくさん収穫し自分たちで作ったお米を味わってもらいたいという思いは、YPPスタッフだけではなく、先生方、保護者の方々も抱いており、今年も、田んぼの面積も昨年の1.5倍ほど広げ、まだ、寒い2月から田起し作業を始めました。新たに広げた田んぼの田起しは、先生方が中心になってやってくさいました。

田んぼのまわりの草刈りは、ボランティアの保護者の方々をお願いしています。今後も大椎っ子田んぼを維持してほしいと、他学年の父兄の方々のお手伝いもあります。こういった保護者の方々、先生方、そして、活動を暖かく見守ってくださる小山町の方々の支えのもと、今年も大椎っ子の米作りの体験学習が始まりました！

5/21(木)晴れ 田植え前の草刈り

毎月第3木曜日を草刈りの日と決め、ボランティアの保護者のみなさんと作業しました。5月はじめのYPPの活動日に代播きをしながら、草とりをしたにもかかわらず、田んぼの中の草が目立ちます。子どもたちの集合場所となるりんどう広場や畦の草刈りをしていただき、すっきり、きれいになりました。これでたくさん子どもたちがきて大丈夫！

6/1(月)晴れ 田植え

青空のもと、大椎小の校歌の2番「源はこの地わが丘行く流れ 千葉のみりをうるおして 世界の海につづいてる」が谷津に響きました。源というのは谷津からの湧き水であることなどを聞き、子どもたちは納得。校歌の意味をじっくりと考えていました。田植えの仕方や注意事項を、YPPスタッフの金谷さんから説明してもらったあと、田植え開始！今年も、1本植えにしました。稲刈りの時に穂についた籾の数をかぞえるため、一粒のお米から何粒とれるか、わかりやすくするためです。

裸足でドロの中に入ると、みな、大はしゃぎ。それでも、横一列まっすぐにうえようと、真剣な子もいました。(金谷さん、いわく、補植の必要がなかったほどしっかりと上手に植えてあったとのこと。合格をいただきました！)田植えが終わっても足を洗わず、YPP田んぼでザリガニとりに興じる子、ドロの感触を楽しんでいる子が多く、足洗いに付き添ってくださった保護者の方をやくもきさせていました。田植えを待つ別の班は、自然観察をしました。谷津田の自然にくわしい網代さん、武田さん、そして花の美術館館長の斉藤さんのもと、鳥の鳴き声に耳をすませたり、草花を見たり、田んぼのなかにいるホトケドジョウやオタマジャクシ、アカガエルを触ったり、五感をフル活動させて谷津の自然を堪能していました。

子どもたちが田植えしたあとに保護者の方にも、田植えを体験していただきました。初めての方も多かったのですが、あっという間に植え終わってしまいました。来年は、保護者田んぼをもう少し広げた方がいいかもしれません！稲の成長を願いながら、子どもたちは、谷津をあとにしました。

(掲載した写真は田植えのお手伝いにボランティア参加した保護者の吉野しげみさんが撮影されました)



一列に並んで田植えのはじまり



田んぼで生きものさがし



シュレーゲルアオガエル



サワガニ



後ろ足が生えたアカガエル

ヘイケボタル

このニュースレターが皆様のお手元に届く頃、ヘイケボタルのシーズン真っ盛りです。日が沈み、暗くなり始めたころ、谷津田にはヘイケボタルが幻想的な光を放ち乱舞していることでしょう。

世界には2000を超える種類の蛍がいます。そのうち日本には40種以上のホタルが生息。その中で代表的なものが2種、ヘイケボタルとゲンジボタルです。両種とも幼虫時代を水中ですごします。実は幼虫時代を水中ですごすホタルは世界のホタルの中でも珍しいタイプなのです。

なぜ、平家と源氏なのでしょう？残念ながら詳しい由来はわかりません。よく言われるのが、ゲンジボタルは体も大きく光も強い。それに対し、ヘイケボタルは体が一回り小さく光も弱い、だからこのような名前がついたのではとのこと。生物の種名に歴史上の氏名が使われ、なおかつストーリー性を感じるのには珍しいことではないでしょうか。そのインパクトのおかげで両種共にその名が広く知れ渡っていると言えるでしょう。

生活史を簡単に追ってみましょう。ヘイケボタルの寿命は1年です。交尾後のメスは水辺の近くのコケなど乾燥しにくい場所に卵を産みます。数は50~100個ほど。1ヶ月ほどで孵化し、幼虫は直後に水の中に入ります。この時彼らの好む水環境は、緩やかな流れか、もしくは止水であること。餌となる巻貝(カワニナ、タニシ、モノアラガイなど)が生息すること。夜行性の彼らは昼間隠れる場所があることなどです。春までに4回の脱皮を繰り返し成長します。越冬も幼虫の姿で水の中です。5月から6月の雨の夜、幼虫は水から上がり柔らかな湿った土の中に入り蛹室を作ります。その中でサナギ(蛹)になります。約2週間で羽化、成虫になります。成虫の寿命はわずか2週間です。

この生活史を掘り下げて考えてみますとヘイケボタルをよく理解できることになると思います。ヘイケボタルが好きな環境は、流れが緩やか、または周年水がある場所。なおかつそこに幼虫が好んで食べるタニシやモノアラガイが生息する。水辺にサナギになるための土手や畦があることです。これらはまさに谷津田がもつ環境です。ヘイケボタルは谷津田と深い絆で結ばれた生き物なのです。この環境の逆のことを考えて見ましょう。流れが急なり字溝の水路、冬場は完全に乾田化して幼虫がすめない、土手はなく護岸工事がされている。今日、日本で多く見られる水田はまさにこの環境です。これではヘイケボタルは生息できないのです。

ヘイケボタルのオスとメスの見分け方をご紹介します。発光器は腹部にあります。腹部は節に分かれています。そのうちオスは二つの節が光ります。それに対しメスは一つの節だけが光ります。オスのほうの光が強いのです。千葉周辺では発光の間隔は約1秒に1回、ゲンジボタルは4秒に1回で明滅します。夜行性の彼らは光の強さ、明滅の間隔で同じ種の異性を見極め交尾をします。幻想的で美しい蛍の光。成虫の寿命はたった2週間。その間にメスとオスがめくり合い交尾をし、次世代に子孫を残します。ホタルの光は恋のシグナル。命を懸けた恋のシグナルなのです。

(平沼勝男)



ヘイケボタルのオス (撮影 平沼勝男)

ヘビを食べるサシバ

小山町でヘビを食べているサシバを観察しました。

6月1日小山町の谷津田で大椎小学校5年生の田植えが行なわれました。

田植えが終わって子ども達が引き上げた後、斜面林に入った大きめの鳥影を見ました。排水路から鳥が入ったあたりを双眼鏡で探したところ林の中の倒木の上でサシバがヘビを食べていました。ヘビやカエルを食べるタカとは理解していましたが実際に食べているところを見たのは初めてでした。

子ども達は田んぼを見て、オタマジャクシや子ガエルがうじゃうじゃいると、その多さに驚いていました。トンボのヤゴもたくさんいました。カエルを食べているヘビもたくさんいるわけです。

小山町の自然の豊かさに支えられて「サシバ」の暮らしは成り立っています。

小山町に行ったら気にかけて観察してください。

いつまでもサシバがやってくる小山町の谷津田であってほしいと願います。

今年、下大和田ではサシバの姿を見ていません。田んぼが少なくなったためではないかと思えます。

小山町も、下大和田も、頑張って田んぼを減らさないようにお米を作りましょう！

「サシバ」の生態については谷津田いきもの図鑑 No.7(谷津田だより No.65 2007年7月号)に越川重治さんが解説されていますのでご参照ください。

(網代春男)



ヘビを足で押さえて食べています (撮影 網代春男)



里山たんけんレポート

第 113 回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2009 年 6 月 7 日(日) 晴れ

久しぶりに晴れ渡った気持ちの良い日になりました。今日は観察会とYPPの古代米の田植えと同時開催となり、総勢40数名の参加となりました。それぞれ希望する方へ参加し、スタートしました。まずは田んぼにいた甲羅が15cmほどのクサガメを観察しました。持ってみて重さを実感したり、匂いを嗅いだりしました。石みたいと言う声も上がりました。後からはもっと大きいクサガメも出てきました。こども達はカワトンボやモンシロチョウ、ウラギンシジミなどを網に納めようと奮戦したり、テントウムシばかりたくさん集める子など、それぞれに楽しんでいました。林縁を2羽のアオサギが飛びました。と、カラスが1羽のアオサギにモビングを掛けました。自分よりずっと大きなアオサギに襲い掛かったのには驚きました。近くにカラスの巣があったのでしょうか。林縁ではクリの花が咲き始めました。クリの花にはいろいろな虫が集まります。これだけでもじっくりみれば面白いものがあります。モミジイチゴの実やクワの実を食べたり、一巡して戻ったらコシヒカリ田をギンヤンマが周回していました。ウグイス、ホオジロが囀り、ホトトギスや、オオヨシキリ、カワセミの声など耳も楽しみながらの谷津散策でした。

(参加者 大人 13 名、子ども 15 名; 報告: 網代春男)

第 98 回 下大和田 YPP「みんなでワイワイ! 古代米の田植え」

2009 年 6 月 7 日(日) 晴れ

梅雨のはしりのぐずついた天気が続いていましたが、今日ばかりはよい天気。このまさに「五月晴れ」に誘われて小さな子どもたちから年配の方まで50人もの皆さんが集まってくれました。常連さん、久しぶりの方、初めての方、コシヒカリの田植えに参加して田んぼが気に入った親子連れで田んぼは大にぎわいです。



田植えが終わって記念撮影(撮影 田中正彦)

今回は「古代米田んぼ」に緑米を植えました。子どもたちは田植えよりもザリガニやメダカなど生きものさがして忙しそうです。大きなカメも姿を見せてくれました。中には田植えのお手伝いに熱中して最後まで大活躍してくれた小学生もいました。日差しは強かったのですが、時折日が陰ってちょうどよい陽気。シュレーゲルアオガエルの合唱の季節は終わりましたが、ウグイス、ホオジロ、時にカワセミやホトトギスなど鳥たちが元気に鳴いて応援してくれました。

予定の時間で緑米を植え終わることができました。参加いただいた皆さん、お疲れさまでした。次は草取りの季節です。先に植えたコシヒカリの田んぼを見ると小さなコナギの芽がびっしり!ゾツとしてしまいましたが、みんなの力で何とかがんばりましょう。

(参加者 大人 26 名、小中高生 13 名、幼児 11 名 報告: 高山邦明)

第 46 回 小山町 YPP「古代米の田植え」

2009 年 6 月 13 日(土) くもり

どんより曇って時折小雨が降る天気でしたが、大勢の方が集まってくれました。大人も子どももロープに沿って横一線に並んで一斉に緑米を植えます。初めての方は苗がうまくほぐれなかったり、一度植えた稲が浮かび上がってしまったり、最初は悪戦苦闘でしたが、2~3列も植えると慣れてきます。「結構おもしろいね!」とお父さん、「もう疲れた!」とお子さん。途中でイチ抜けたの子もいましたが、無事全部植え終わりました。



大人も子どもも横一線に並んで植えていきます

次は田んぼの自然観察。あちこちでピョンピョンはねるアカガエルの子どもを踏みつけないように気をつけながら畦で観察しました。暖かい田んぼにはまだオタマたちがたくさん泳ぎ、よく見るとドジョウの赤ちゃんの姿もありました。湧き水の近くではサワガニを見つけました。田んぼは生きものでいっぱいです。

あちこちでホタルブクロが花を開き、そろそろヘイケボタルの季節の始まりですね。

(参加者 大人 17 名、小学生 6 名、幼児 5 名; 報告: 高山邦明)

<谷津田・季節のたより>

小山町

6月17日 田んぼからノシメトンボやアキアカネなど赤とんぼの仲間が次々と羽化、ナガコガネグモの幼体が田んぼのあちこちに小さな網を張っている(高山)。

6月27日 稲の間でウリカワやオモダカが白い花を咲かせる(高山)。

下大和田

6月9日 ゴマダラチョウとコムラサキのツーショットが見られた(網代)。

6月29日 カブトムシが見られるようになった。樹液に4匹来ていた(網代)。



ゴマダラチョウとコムラサキ(撮影 網代春男)

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。

・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。

・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任をお願いします。

第99回「田んぼの生きものと遊ぼう! & 田んぼの草取り」

田んぼで魚をつかまえたり、カエルと遊んだり、林でカブトムシを探したり、谷津の自然を楽しみたいと思います。ぐんぐん伸びる田んぼの草取りもしますのでご協力をお願いします。

日時: 2009年7月19日(日) 10:00~14:00 *小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円)

持ち物: 長靴、軍手、帽子、弁当、飲み物(暑いのでたっぷり!)、敷物など

参加費: 300円(資料代等)

主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

第47回 小山町 YPP「田んぼの草取りと自然観察」

稲と競争でぐんぐん伸びる田んぼの草取りをします。生きもの観察をしながら楽しい作業です。お子さん連れでぜひ参加下さい。

日時: 2009年7月11日(土) 10:00~12:30 *小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場

(ご連絡いただければ地図をお送りします)

持ち物: 長靴、軍手、帽子、飲み物(暑いのでたっぷり!)、敷物など

参加費: 100円(資料代など)

主催: ちば環境情報センター

第115回 下大和田 8月の谷津田観察会とごみ拾い

クヌギ酒場が開店しているでしょう。雄大なオニヤンマにも出会えるでしょう。林縁ではシュレーゲルアオガエルの子が葉の上にちょこんと乗っている姿も見られる頃です。真夏でも涼しい谷津田を散策します。午後まで時間の取れる方は田んぼの草取り作業にご協力いただければと思います。

日時: 2009年8月2日(日) 観察10~12時 午後は田んぼの作業など自由活動 *小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(下大和田 YPP に同じ)

集合: 下大和田 YPP に同じ

持ち物: 筆記用具、飲み物(暑いのでたっぷり!)、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費: 300円(資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター

編集後記 下大和田も小山も田植えが終わりました。ホッと一息というところですが、ゲンゲン生長を始めた稲の横から雑草が負けじとたくさん芽を出していてゾツとしてしまいます。昔から草取りが田んぼで一番大変な作業と言われてきました。草取りの教訓に「上農は草を見ずして草を取る、中農は草を見て草を取る、下農は草を見て草を取らず。」があります。…下農にはなりたくないのですが、どうも毎年負けてしまいます。下大和田も小山も7月は草取りをしますのでみなさんのご協力をお願いします。

(高山邦明)